

平成31年・令和元年度 西武学園文理中学校 学校自己評価表

| | | | | |
|--------|---|-----|---|--------------|
| 目指す学校像 | 日本人としてのアイデンティティを大切にしながら、グローバルな視野をもち、自ら課題を発見し、多様な仲間と協働しながら解決・発信できるトップエリートを育成する。 | | | |
| 重点目標 | グローバルな視野と21世紀型スキルを培うために、学校教育活動全般を通じて①総合的な言語力の修得、②異文化理解の体得、③日本の伝統文化の理解、以上の三点について特に留意してその育成を図る。特に、日常生活面における指導の徹底を図り、自学自習の習慣の強化、情操の向上等により社会から信頼される人格の陶冶を目指す。 | 達成度 | A | ほぼ達成（8割以上） |
| | | | B | おおむね達成（6割以上） |
| | | | C | 変化の兆し（4割以上） |
| | | | D | 不十分（4割未満） |

| 年度課題 | | | 年度評価 | | 次年度への課題と改善策 |
|------|-------------|--|--|---|---|
| No. | 課題 | 具体的目標 | 課題項目の達成状況 | 達成度 | |
| 1 | 教育活動 | 学力の向上 | 業の充実と授業時間の確保に努め、S時限、確認テスト、ゼミ、補講なども充実させ、基礎学力の定着を図り、日々の学習に対しての躓きを早い段階でフォローする体制を強化した。また、学習サポートセンターにおいて、個別指導による計画的な学習展開を進め、放課後の時間の有効活用に努めた。 | B | 生徒が受け身にならず、自学自習の習慣が身につくように、個別指導を増やしていく。学習サポートセンターとの連携を強化する。 |
| | | | 総合的な英語力(4技能)を習得させるため、日本人英語教師とALTによる特徴ある授業を展開させた。また、タブレット端末を利用した洋書多読に取り組み、各生徒のレベルに合わせて英語力の強化を図った。英検やGTEC、漢検の受験を奨励し、中学三年生の7割が英検準2級以上、漢検も2割が準2級以上合格した。 | A | オンライン英会話を授業内や放課後に充実させ、英語の4技能を向上させた。継続して外部検定試験や資格試験を積極的に受験させ、上位級を目指す指導をする。 |
| | | | 学力推移調査を用い、各生徒に自分の学力水準を全国レベルで把握させ、学習指導に活かした。また外部模試を受験させ、難解な問題にも取り組ませることによって更なる学力向上とモチベーションの強化に努めた。 | B | データ分析により個々の弱点を可視化し、基礎学力の定着を目指すためにも、データの有効的な活用を図る。 |
| | | | 中学二学年から研究課題学習を意識して、生徒各自で自由なテーマを選び、中学卒業時に提出する卒業論文の作成に取り組ませた。そこで体験的な活動や研究を中心に学習を展開するようにし、その過程や研究結果に関する成果物を様々な方法で記録させ、卒業論文として仕上げさせた。また、卒論の発表を全員行うとともに、二年生にも聞かせることによって、プレゼンテーション力の向上と下級生に指針を与えた。 | A | 主体性・多様性・協働性をもった人材育成を念頭に進める。創造性を育み、自己肯定感を高める取り組みを日々の学習に導入させる。 |
| | | 人間形成 | 学習だけではなく、多彩な学校行事を通し、生徒たちに達成感や友人達との協調の大切さを体験させた。クラブ活動では限られた時間の中で、今年度は県大会・全国大会に出場するクラブもあり、生徒の努力と成長が認められた。 | A | 中央委員会を中心に、委員会活動の充実を促す。クラブ活動についても拡充を図る。 |
| | | | 「総合的な学習(CA)」の計画的な実施と、内容の充実を図った。文化祭における展示発表の中で、協調性を養うと共に、プレゼンテーション能力などを確実に身に付けさせた。 | A | 開校以来の伝統を守ると共に、より充実した内容になるよう努める。 |
| | | 挨拶運動(オアシス運動)や頭髪服装指導を通し、端正な身なりと明るい挨拶のできる生徒たちを増やした。いじめについては生活アンケートを実施し、担任との面談によって防止に努めた。また、薬物乱用防止、サイバー対策、性教育など、授業や講演会を随時実施し、生徒や保護者の意識の向上を図るとともに、非行防止にも努めた。 | B | 生活指導では、問題が見られる乗車マナーなどの更なる向上を図る。いじめについては教職員、生徒共にその提議を再認識し、定期的に注意喚起を促す。 | |
| 2 | 学校としての組織的対応 | 進路指導部との連携 | 中学各学年の担当者と、進路指導部の中学担当者が定期的に会議を持ち、高等学校卒業時に、自己の目標を実現可能にするために必要な事項を検討した。それにもとづいて、各種のキャリア教育やイベントに関する内容を再検討した。 | B | 社会の変化を的確にとらえ、生徒の将来に資するための必要事項を確認し、実際に指導に当たる。 |
| | | 保護者との連携 | 保護者会、保護者面談、授業参観等を定期的に行い、年度当初の学校ならびに学年運営計画を保護者に説明し、理解と協力を求めた。またHPでは、保護者連絡欄を必要に応じて更新し、連絡事項の徹底を図った。また、スタディサプリ連絡帳を利用し、クラス毎のグループ配信を活用し、学校と家庭の連絡や危機管理について繋がりを密にした。 | A | HPならびにスタディサプリ連絡帳を活用し、生徒と保護者との連絡体制を確立して、学校と家庭の連絡や危機管理について繋がりを密にする。 |
| | | 教育活動の対外的報告 | HPの「What's New」欄の更新により、学校行事やクラブ・委員会活動の様子など、学校の様々な活動をタイムリーに報じることができた。また、各学年で定期的に「学年通信」を発行し、主に校外の研修活動や学校行事について、学年の様子を保護者に伝えることができた。 | A | 外部の方や保護者に対して、学校の教育活動に関する報告の更なる充実を図る。 |
| | | 学習環境の美化と整備 | 年度当初より3S運動(整理・清掃・整頓)を教員研修を含めて推進した。委員会活動を中心に、教員と生徒が一体となって学習環境の整備、改善につとめ、特に教室の整理・整頓・整列の可視化を図った。 | A | 日々の生活の中で3S運動が実践できるように、日常生活のあらゆる場面について再度見直しを進める。 |
| 3 | 教職員人材育成 | 授業アンケートの実施 | 生徒による授業アンケートを年二回、生徒と保護者による学校アンケートを年一回実施した。授業アンケートについては、教員一人ひとりに集計結果を示し、教員が明らかとなった課題を共有し、各教科指導に反映させるなど、自らの指導改善に役立てた。学校アンケートについては、結果を全教員で共有した。 | B | 次年度も各教員の力量向上と学校全体の教育力の向上に努める。 |
| | | 課題設定表の作成と評価 | 全教員が「年度課題設定表」を作成し、自ら取り組むべき課題を明らかにし、年度末には課題の達成度を各自で評価し、分掌評価、学校評価へ結び付けている。 | A | 毎年、教員の効果的な自己点検自己評価を意識的にできるように工夫する。 |
| | | 職員研修の実施 | 年間を通じ定期的に職員研修を行った。研修は、外部講師または校内担当者に依頼し、「進路指導」「生徒指導」「教育相談」「環境美化」「防災」「コンプライアンス」「生徒募集」など、内容も多岐に及んだ。 | A | 年間を通じた、より計画的な研修を実施し、資質向上に努める。特に防災に対しては、教職員の危機管理意識を高める。 |

平成31年・令和元年度 西武学園文理高等学校 学校自己評価表

| | | | | |
|--------|---|-----|---|--------------|
| 目指す学校像 | 日本人としてのアイデンティティを大切にしながら、グローバルな視野をもち、自ら課題を発見し、多様な仲間と協働しながら解決・発信できるトップエリートを育成する。 | 達成度 | A | ほぼ達成（8割以上） |
| 重点目標 | ○ 旧帝大・早・慶・上・理大・GMARCH等の合格者数を増大させる。 ○ Global入試における英語資格試験が利用できる体制を確立するとともに、国際教育と海外大学進学に対応できる進路体制を構築する。 ○ 知識・技能の習得と共に、それを活用するための思考力・判断力・表現力を身につけさせる。 | | B | おおむね達成（6割以上） |
| | | | C | 変化の兆し（4割以上） |
| | | | D | 不十分（4割未満） |

| 年度課題 | | | 年度評価 | | 次年度への課題と改善策 |
|------|-------------|---|--|---|---|
| No. | 課題 | 具体的目標 | 課題項目の達成状況 | 達成度 | |
| 1 | 教育活動 | 学力・学習意欲の向上 | 英語を中心とした教科連携型授業を取り入れ、生徒の理解を深めた。また、長期休業中ゼミおよび高1～高3生夏季合宿ゼミ等も行った。英語科では、海外生徒とのメールのやりとり、また模擬国連を開きプレゼン力や語学力向上に努めた。 | B | ゼミの内容の充実と受講者を増やすことを目指す。進路指導部が主体となって講座を選定し、生徒が受講しやすい時間割を編成する。さらに受講を促すために学年との連携を図る。 |
| | | | ICTを利用して自宅学習の時間を増やし、自発的に授業の予習や復習をする環境を整えた。スタディーサプリおよびスタディサプリEnglishを導入することで学力向上を図った。 | B | スタディサプリを適切に活用し、家庭学習の充実を図る。教科担当は、生徒の実情に応じた講座の利用を促す。担任、学年は互いに協力して生徒の受講状況を共有し、日々の学習指導に活かす。 |
| | | | イノベーションセンター(新狭山駅前)は自学自習室の場として、また学習サポートセンター(II.You館)は自習に加えて質問が受けられる体制を整え、定期考査前などは多くの利用者がいた。学習サポートセンターにおいては、ICTを利用した質問対応を導入することで、自宅からでも質問できる体制が整った | C | 学習サポートセンターの利用者を増やし、生徒の学力向上に結びつけるために、サポートセンターのさらなる充実について検討する。 |
| | | | 探究推進委員会を設置し、本格的な探究学習の導入に向けて準備した。また、理数科では課題研究の一環として先端科学講座の更なる充実を図り、様々な課題に取り組んだ。その結果、3月に行われた「ベネッセSTEAMフェスタ2020」でのソーシャルイノベーション部門では、機械学習を使用した動画解析について発表したグループが関西学院大学賞を受賞した。また、理数科生徒は、文理小学校とアメリカ研修旅行での現地小学校で「プログラミング教室」を行なった。 | A | 次年度は教育課程を改定し、「総合的な探究の時間」の単位数を増加する。探究活動に力を注ぐために指導的役割を果たす分掌を置き、教員の研修を重ね、学校全体で取り組むことを検討する。理数科の活動においては学校全体の探究活動を牽引できるように育成する。 |
| | 人間形成 | 高校2年次にオーストラリア、アメリカ、マレーシア・シンガポールの三方面に研修旅行を行い、事前事後学習を通じて学んだ。また、体育祭や文化祭などの学校行事においては、生徒の主体性を育むように意識し、教員がサポートする体制で取り組んだ。 | A | 海外研修等の行事に際しては、その狙いを明確して企画内容を検討する。行事においては生徒の主体性が育てられるような工夫をする。 | |
| | | 普通科・英語科の高校2年の「総合的な探究の時間」ではSDGsについて学び、その中で自分の興味・関心のある課題を自分のこととして捉え、その解決策を考え、全員がポスター発表を行った。 | A | 課題発見力を養うとともに、その課題に対して、仲間と協働しながら解決策を見出せるようにさせる。 | |
| 2 | 学校としての組織的対応 | 中期ビジョン委員会の設立 | 本校の今後のあり方を検討する中期ビジョン委員会を立ち上げ、本校が目指す方向性をはっきりさせることで、より良い学校を目指した。委員会では、内進生と高入生の混合クラス編成、英語科と理数科の今後について、コース名称変更、新教育課程を見据えた取り組みについて検討した。 | A | 中期ビジョン委員会の最終報告を受け、令和2年度はその提言案に沿って実行可能なものから導入する。 |
| | | 企画運営会議の設置 | 学年、分掌から提案された議題について議論し、学内の問題点をスピード感をもって改善するべく企画運営会議を立ち上げた。週1回の会議で様々なことを議論できる機会となった。 | A | 議論の対象となった議題の審議内容が全職員に伝わるようにする。 |
| | | 進路指導の充実 | 模擬試験の分析会を導入し、生徒一人ひとりの今後のあり方を考えるとともに、学習指導に活かした。夏季勉強合宿と夏季ゼミのあり方を再検討し、生徒の学力向上に向けた方向性を探った。全校での成績会議を実施し、学年を越えて成績を共有し指導できるようにした。 | B | 文系・理系の早期選択制を見直すこと、さらに国公立大学への受験指導を充実させる。新教育課程を見据えた準備を進める。 |
| | | 経営改革 | 育てたい生徒像を明確にするとともに、3つのポリシー(アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー)を策定し、本校が目指すところを明確にした。育てたい生徒像を意識して、分掌、委員会での議論がなされた。 | A | 今後、新たな改革を導入する際、常に「育てたい生徒像」を判断基準として活用する。 |
| | | 教育活動の対外的報告 | 学校行事やクラブ活動の様子など、対外的な広報活動としてホームページを利用して発信した。Facebookの活用方法を議論するとともに、Twitterの導入も視野に入れて検討した。またホームページ、説明会(学内、学外)等で動画による募集活動を実施した。 | A | 広報活動の内容を見直し、文理高校を広く知ってもらえるよう学内説明会だけでなく学外説明会も積極的に実施し更なる充実を図る。 |
| 3 | 教職員人材育成 | 業務面接の実施 | 校長が全教職員と業務面接を行い、業務内容の確認と問題点の洗い出しを行った。この面接により業務目的が明確になり、目的の達成につながった。 | A | 業務面接において、改善すべき点があった時には速やかに改善し、業務をスムーズに行えるようにする。 |
| | | 授業アンケートの実施 | 授業アンケートを年2回実施した。1回目の結果を踏まえて教科内で、授業見学や公開授業を実施した。教員自身が授業を見つめ直すことで指導力の向上を目指した。アンケート内容の教員の受け止めと改善策をクラス内に掲示して、よりよい授業展開を目指し、全教科にわたり2回目の評価があがった。 | B | アンケート結果をもとに、現在の生徒に相応しい効果的な授業展開をする。クラス内掲示した改善策について実行する。 |
| | | 授業力向上 | 校長が非常勤講師を含め全教員の授業見学を行った。授業後には校長と授業担当者との面談により、授業改善につながる点を確認し、その後の授業にいかした。eラーニングを導入し、モデル授業を確認するなど授業力向上に取り組んだ。 | A | 生徒の実情にあった教科指導を実行する。教科を学ぶ意義を生徒に伝えることで、学習意欲向上に務める。 |
| | | 課題設定表の作成 | 年度当初に「課題設定表」を作成し、中間報告・年度末報告で自己点検・自己評価の改善を図り、自ら課題を明らかにした。年度末には課題の達成度を各自で評価し、分掌評価、学校評価へ結びつけた。 | B | 課題設定表を活用し、教員の自己点検・自己評価の分析に努め、昨年度よりも向上できるように務める。 |

平成31年・令和元年度 西武学園文理中学校関係者評価

| | | | |
|--------|---|----|------------------|
| 目指す学校像 | 日本人としてのアイデンティティを大切にしながら、グローバルな視野をもち、自ら課題を発見し、多様な仲間と協働しながら解決・発信できるトップエリート を育成する。 | 凡例 | A そう思う |
| 重点目標 | グローバルな視野と21世紀型スキルを培うために、学校教育活動全般を通じて①総合的な言語力の修得、②異文化理解の体得、③日本の伝統文化の理解、以上の三点について特に留意してその育成を図る。特に、日常生活面における指導の徹底を図り、自学自習の習慣の強化、情操の向上等により社会から信頼される人格の陶冶を目指す。 | | B どちらかといえばそう思う |
| | | | C どちらかといえばそう思わない |
| | | | D そう思わない |

| 評価項目 | 学校関係者評価 | 凡例 | 次年度への課題と改善策 | | | | | | |
|-------|--|---|--|---|--|--|--|---|--|
| 総合的評価 | <p>(1) 学校の雰囲気・校風がよい</p> <p>(2) 学校への交通の便がよい</p> <p>(3) 校舎・施設がよい</p> <p>(4) 安全への配慮が行き届いている</p> <p>(5) 生活指導がしっかりしている</p> <p>(6) いじめなどの問題が少なくてよい</p> <p>(7) 学校行事が充実している</p> <p>(8) 保護者同士の関係がよい</p> <p>(9) 制服がよい</p> <p>(10) 納得できる学費である</p> | <p>(1)次年度に繋げていく。</p> <p>(2)輸送体系の再検討を図る。</p> <p>(3)計画的に改装を進めていく。</p> <p>(4)さらに強化していく。</p> <p>(5)より一層の改善点を模索していく。</p> <p>(6)問題発生ゼロを目指して努力する。</p> <p>(7)現状維持と、更なる改善点を模索する。</p> <p>(8)保護者会や関連行事で改善を図る。</p> <p>(9)改訂に向けてさらに検討を進める。</p> <p>(10)具体的に諸費用の削減を図る。</p> | <p>学校の雰囲気や校風については概ね満足しているが、スクールバスの便数などについては、早急に改善を検討して欲しい。いじめなど子供同士のトラブルは少なく感じ、日頃からの生徒指導や安全への配慮がなされていることに満足している。廊下や階段の壁が塗り替えられ、校内が明るく感じられる。トイレの改装は子供たちも満足している。授業料については納得しているが、制服や指定用品等については、高価に感じるので改善を求めたい。学校行事については、子供たちに様々な体験を多くさせてくれるので、とても満足している。</p> | | | | | | |
| | 学習指導評価 | | | <p>(1) 学習指導・教科学習が充実している</p> <p>(2) 基礎学力の定着がきちんと行えている</p> <p>(3) 成績上位者をさらに伸ばしてくれる</p> <p>(4) 成績下位者の面倒をよくみってくれる</p> <p>(5) 指導計画・教育課程が充実している</p> <p>(6) 体験学習が充実している</p> <p>(7) 英検・漢検の指導が充実している</p> <p>(8) 国際理解教育が充実している</p> <p>(9) 進学指導が充実している</p> <p>(10) 心の教育が充実している</p> | <p>(1)このまま改革を進めていく。</p> <p>(2)指導体制の充実を推進する。</p> <p>(3)ゼミ等の更なる充実を図る。</p> <p>(4)効率的な補習体制の確立を図る。</p> <p>(5)学習指導要領改訂を踏まえ再検討する。</p> <p>(6)現状を維持していく。</p> <p>(7)現在の取り組みを強化していく。</p> <p>(8)具体的な内容について再検討する。</p> <p>(9)キャリア教育等の見直しを検討する。</p> <p>(10)行事や体験との関連性を配慮する。</p> | <p>国際理解教育を中心に、基礎学力の定着に向けて学習指導・教科指導が行われており、私学ならではの特色が発揮された充実した内容となっている。一方で、下位者それぞれを対象とした講座等の実施にも期待したい。CA活動や様々な行事が設定されており、生徒が主体的に学ぶ環境が整っている。英検や漢検についてはこれまで以上に重要度が増してきているため、2次試験の対策等、より取り組みを充実させてもらいたい。進学指導の中でもキャリア教育は系統的に実施されているが、心の教育についてもより充実させてもらいたい。</p> | | | |
| | | | | 教員評価 | | | <p>(1) 熱心な先生が多い</p> <p>(2) 明るい先生が多い</p> <p>(3) 公平な先生が多い</p> <p>(4) 困ったときに相談しやすい先生が多い</p> <p>(5) 頼りがいのある先生が多い</p> <p>(6) 質問や問いかけに、的確に対応してくれる先生が多い</p> <p>(7) きめ細かな指導をしてくれる先生が多い</p> <p>(8) 授業がわかりやすい先生が多い</p> <p>(9) 生活指導をしっかりやってくれる先生が多い</p> <p>(10) 学級運営が上手な先生が多い</p> | <p>(1)教員の前向きな姿勢を保持する。</p> <p>(2)現状の維持に努めていく。</p> <p>(3)全ての生徒に誠実に向き合うようにする。</p> <p>(4)生徒との距離感について配慮を深める。</p> <p>(5)生徒の信頼感を向上させる努力をする。</p> <p>(6)日々研鑽に努め指導力を高める。</p> <p>(7)生徒の立場に立った指導を心がける。</p> <p>(8)教員の研修をより多く実施する。</p> <p>(9)指導内容の共通理解の徹底を図る。</p> <p>(10)職場内での情報交換の場を多く設ける。</p> | <p>熱心で明るい先生が多く、学習環境はおいに満足している。学級運営についても真摯に対応してくれるので高く評価できる。困ったときの相談のしやすさと公平さで信頼感があり、生徒との距離感も適切である。また、個別指導についても親身に面倒を見てくれることが多いので非常に感謝している。一方、集団に対しての授業運営において、細かいところでも不十分と感じることもあり、より一層の研鑽に努めてもらいたい。生徒指導においても、教員間で差がないようお願いしたい。</p> |

平成31年・令和元年度 西武学園文理高等学校関係者評価

| | | | |
|---------------|---|----|------------------|
| 目指す学校像 | 日本人としてのアイデンティティを大切にしながら、グローバルな視野をもち、自ら課題を発見し、多様な仲間と協働しながら解決・発信できるトップエリートを育成する。 | 凡例 | A そう思う |
| 重点目標 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 旧帝大・早・慶・上・理大・GMARCH等の合格者数を増大させる。 ○ Global入試における英語資格試験が利用できる体制を確立するとともに、国際教育と海外大学進学に対応できる進路体制を構築する。 ○ 知識・技能の習得と共に、それを活用するための思考力・判断力・表現力を身につけさせる。 | | B どちらかといえばそう思う |
| | | | C どちらかといえばそう思わない |
| | | | D そう思わない |

| 評価項目 | 学校関係者評価 | 次年度への課題と改善策 | 意見・要望など |
|--------|--|--|---|
| 総合的評価 | <p style="text-align: center;">■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う ■ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない</p> | <p>学校生活全般に関しては一定程度の評価をいただいているので、今後も維持していけるよう努めていきたい。</p> <p>また、学校行事を通して、生徒が達成感を覚え、さらなる成長を遂げるよう検討したい。</p> <p>施設については老朽化による改修工事を計画的に行い、生徒が安心、安全に学校生活を送ることのできる環境を提供したい。</p> <p>制服や学費については一定の教育水準を確保しつつ、 unnecessaryな部分に関しては削減することで保護者負担を軽減するよう努力したい。</p> <p>生徒にとって学校生活の一層の充実が図れるよう、関係の分掌と連携しつつ、スピード感を持って進めていきたい。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・雰囲気やよい学校だが、それを適切に外部にアピールしていない、との意見をいただいた。学校の取り組みや魅力を外部発信できるようにインターネットを利用した配信方法を視野に検討したい。 ・制服に関連して、夏の暑さ対策のためワイシャツの他に速乾性のある指定のポロシャツ等を導入して欲しいとの要望をいただいた。この件については、コロナウイルス対策の室内換気により夏場の暑さ対策とも関連するので、前向きに検討したい。 |
| 学習指導評価 | <p style="text-align: center;">■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う ■ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない</p> | <p>学習指導や進学指導に関しては高い評価をいただいているので、引き続き生徒の希望進路を実現できるよう努力したい。</p> <p>体験学習についても高評価をいただいているので、体験と学習を連携させながら、内容の濃い、アカデミックな教育を提供したい。</p> <p>一方で、英検や漢検の資格試験に向けた指導を放課後に展開してきたが、授業内での指導も充実させたい。</p> <p>授業においては成績上位者に向けての偏りがやや見受けられたので、今後は生徒個々をより一層意識し、授業の進め方を工夫したい。また、授業改善は、教員同士がアイデアを出しながら、生徒が確実に成長し得る授業を構築していきたい。</p> <p>ゼミに関しても、生徒の弱点を克服し、伸ばしていけるよう、教科バランスを考慮しながら、効果的なゼミを展開していきたい。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年3月からのコロナウイルスの感染拡大防止のための休業について、オンライン授業の充実をお願いしたい、との要望を受けた。 本校としては、オンライン授業の配信案をもっていたので、ICT委員会を中心に配信方法等を検討し実行した。 オンライン配信やライブ配信を実行した結果、問題点もあったので、今後、改善していきたい。 ・進路指導に関してはもう少し早い時期に個別に細やかな指導が欲しいとの要望をいただいた。進路指導部の体制の見直しを含めて、1年次からの進路指導を強化したい。 |
| 教員評価 | <p style="text-align: center;">■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う ■ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない</p> | <p>管理職による授業見学、生徒の授業アンケートを実施しながら、定期的に検証し、改善を図る。</p> <p>課題設定表を実施し、目標値を共有し、個々に目標を達成するための方法を記し、校長、教頭との業務面接を通して、進捗状況の確認および年度末には達成度の検証を行う。</p> <p>また、生徒が安心して授業や学校生活を送れるよう、教務部や進路指導部など関係分掌の主任と管理職が連携する。</p> <p>また、生徒指導、進路指導に対応していく中においても、教員が個として立ち向かうのではなく、協力し合えるチームになれるようサポート体制を構築したい。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・併設の小学校では、多くのALT教員が授業をサポートしているため、高校においてもALT教員の増員を希望する声があがった。令和2年度から各学年にALTを配置するよう対応した。 ・クラブ活動の指導について要望が寄せられた。クラブ活動に限らず、気がついた点、要望がある場合には、その都度、学校に連絡いただくようお願いした。 |